

2024年度（令和6年度）広島市立大学卒業式学長告辞

学部卒業生、大学院修了生の皆さん、本日はご卒業、ご修了、まことにめでとうございます。これまで卒業生・修了生を励まし支えてこられましたご家族の皆様、関係者の皆様にも大学を代表してお慶びを申し上げます。

本日の卒業式を迎え、本学に入学してからきょうまでの出来事を思い返す卒業生・修了生も多いと思います。皆さんが本学に入学してから、国の内外ではいろいろな出来事がありました。昨年夏のパリオリンピック・パラリンピックの開催や野球の大谷翔平選手、将棋の藤井聡太棋士の活躍など、明るい話題ももちろんありましたが、日本および世界の混迷と混乱を感じさせるニュースも数多くありました。

2020年初頭から始まった新型コロナパンデミックは、学部卒業生の多くが入学した2021年4月においても終息はまったく見通せず、緊急事態宣言が発令されるなど、社会に大きな影響を与え続けていました。本学においても、緊急事態宣言中はオンライン授業を継続するなど、大学運営や学生生活に大きな影響がありました。2023年5月に新型コロナの感染症法上の扱いが5類に変更されたことでやっと社会も大学も正常に戻りましたが、今なおその影響は残っています。

海外においては、ほぼ3年前の2022年2月末にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、戦争の惨禍は今なお続いており、やっと停戦の兆しは見えてきましたが、今後どうなるかはなお不透明です。中東におけるハマスとイスラエルの武力衝突も発生してから1年半が経過しましたが、ガザ地区における人道危機は続いています。さらに本年1月に米国で新しい大統領が就任してからは世界の混迷が益々深まっているように感じられます。国内においては昨年1月に能登半島地震が起き、大きな被害が出ましたし、昨年9月には同じく能登半島で豪雨災害が発生しました。

こうした世界情勢の不安定化や大規模自然災害の発生に加えて、最近、世界に大きな衝撃を与え続けていることとして AI すなわち人工知能の驚異的な

発展と爆発的な普及があります。ChatGPT に代表される生成 AI を使えば、人間が作成したものと判別できないような文章や動画の生成も可能となりました。さらには、生成 AI を使ったフェイクニュースやフェイク画像もインターネットに溢れるようになりました。

このように多くの学部卒業生が本学で過ごした2021年4月からの4年間に限っても、過去の事例からは予測し難い出来事が国の内外で起きました。それでは、生成 AI の驚異的な発展と、混迷と不透明感が世界的規模で増大するこれからの時代において、本日、本学を卒業・修了する皆さんはどのように生きていくべきなのか。私はこれから3つのキーワードを皆さんにお話しします。それは「知る・考える・伝える」です。どこかで聞いたことがあると思う人も多いと思います。これは本学の学部教育の特色ある教育プログラムである「いちだい知のトライアスロン」のキーワードです。

「いちだい知のトライアスロン」は読書、映画鑑賞、美術鑑賞に取り組むことを学生に推奨する教育プログラムです。学部学生は初年次教育プログラムの必修科目である3学部合同基礎演習において知のトライアスロンの入門コースを必ず受講することになっていますので、知のトライアスロンに挑戦したことを思い出す学部卒業生の皆さんも多いことでしょう。この知のトライアスロンのキーワードが「知る・考える・伝える」です。この3つのキーワードはこれからの世界で生きていく上でも非常に重要だと私は考えています。これからの世界において皆さんがより良く生きるために、この3つのキーワードについて、もう少し私の考えを述べたいと思います。

まず、「知る」とは何か。もちろん知識の獲得を意味しますが、単なる知識の獲得だけでは不十分で、これからの時代においてはデータの真偽や情報の本質を見極めることが重要です。インターネットと検索エンジンが普及した現代においては、「知る」とは「検索する」とことと解釈されている面があります。しかしながら、検索は「知る」ことの一つの手段でしかありません。「知る」とはデータや情報の単なる収集ではなく、収集したデータの真偽や情報の本質を見極める知的作業を伴うことが必要です。インターネット検索すれば

多くのデータや情報を集めることができますが、それらが常に正しいもの、社会にとって有益なものとは限りません。特に生成 AI の驚異的な進歩により、虚偽のデータや情報が意図的に作り出されています。こうした状況においては信頼できるデータや情報を集めることに常に留意すべきです。もちろん、「知る」ためには「検索」だけではまったく不十分で、日頃からの能動的な知識獲得、知のトライアスロンの言えば、読書、映画鑑賞、美術鑑賞が非常に重要であり、また、有意義であることには変わりはありません。

2つ目のキーワードの「考える」とは何か。これは、「自分の頭で考える、判断する」ということです。何かの課題に直面したとき、生成 AI に質問を投げかければ、何らかの答えが瞬く間に返ってきます。しかしながら、生成 AI は自然言語処理に基づく最大公約数的回答を出力するだけで、生成 AI が考えるわけではありません。人間だけが「考える」ことができます。インターネットを活用し、生成 AI の回答を参考にするにしても、最後は自分の頭で考えて、自分が納得する答えを見つけなければなりません。是非、「自分の頭で考える、判断する」ことを心がけて下さい。また、現代においては、イエスかノーかを即座に判断することを良しとする風潮があります。しかしながら、この世界はこうした二分法で理解できるほど単純なものではありません。判断に迷うことがあったら、勇気をもって立ち止まり、判断を一時、保留し、じっくり考えることが重要です。

3つ目の「伝える」とはもちろん「人に伝える」ということです。すなわちコミュニケーションです。「伝える」とは情報の一方向の機械的な伝達を意味するものではありません。相手に理解してもらえるように伝えることが重要です。そのためには相手の立場に立って、相手がどのように考えているかを理解した上で、適切な形で伝えることが重要です。今、世界中で分断が起きています。その理由の一つは「伝える」ことが機能していない、あるいは「伝える」ことをあきらめる人、伝えられることを拒絶する人が多くなっているためだと思います。しかしながら、人は社会でしか生きていけません。それゆえ、人は社会との関係性を深めていくことが必要です。そのためには人と人とのコ

コミュニケーションが非常に重要となります。「知る」ことで得た知識や情報に基づいて、自分の頭で考えた結果を人に適切に伝えること、人から伝えられたことに真摯に向き合うこと、そしてどんなに困難な状況においても、こうした態度をあきらめることなく根気強く続けていくことでこの世界は良くなるし、コミュニケーションを深めていくこと以外に混迷と分断が進むこの世界を良くしていく方法はないように私は思います。

以上が生成 AI と混迷の時代において未来に旅立つ皆さんへの私のアドバイスですが、最後にもう一つ、皆さんにお願いしたことがあります。昨年のノーベル平和賞は日本の被爆者団体協議会、被団協、に贈られました。1945年8月6日の朝に広島市に起こったことは、決して歴史の1コマとして忘れられてよいものではありません。私達はあのとき自らを滅ぼす能力を持つ兵器、すなわち核兵器を手にしたのであり、核兵器は今もその威力を数万倍にも増して私達の手元にあります。1945年8月6日の広島、そして同年8月9日の長崎で起こったことを知ることは、人間の尊厳と生存に直接かかわることです。世界最初の被爆都市である広島市が設立した公立大学である本学は「世界平和に貢献する大学」を建学の基本理念に掲げています。被爆80周年となる今年、本学を卒業・修了する皆さんには、被爆地広島の大学から巣立ったことを忘れず、平和と向き合い、世界の平和の構築に自分が何かできるかを常に考え、行動することを心から願います。

以上が皆さんの卒業にあたって、私が伝えたいことです。最後になりますが、ご家族、友人、そして本学教職員と共に、卒業生の皆さんの卒業・修了と、新たな門出を心から祝福します。皆さんのこれからの健康と幸運、ご活躍を心より祈ります。

本日は、ご卒業、ご修了、まことにめでとうございます。

2025年（令和7年）3月24日

広島市立大学長 若林 真一